

報道関係各位

2022年2月24日
株式会社インテージリアルワールド

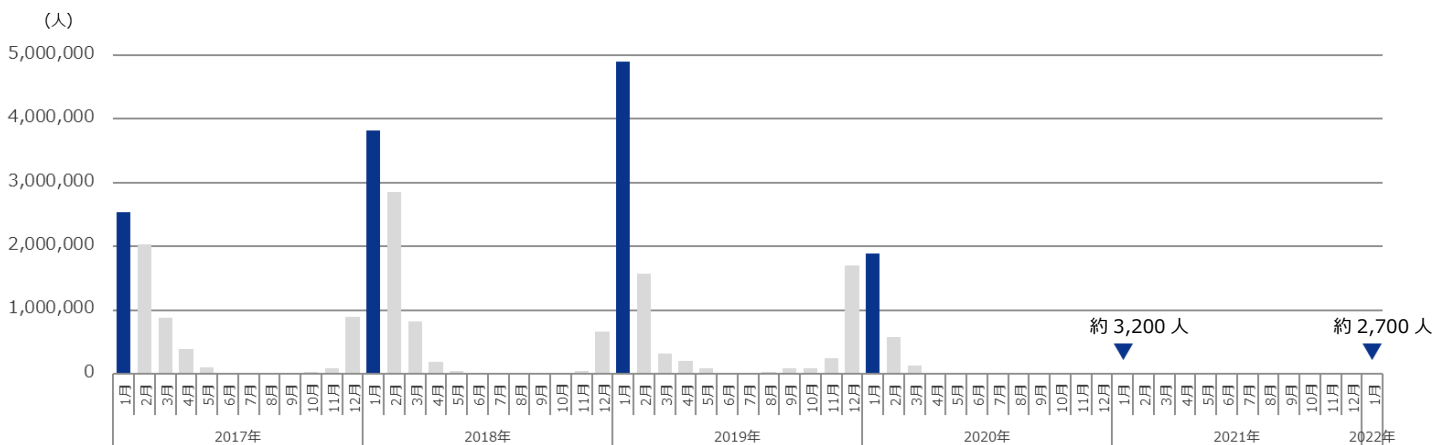
インフルエンザ患者数は例年比約 1,200 分の 1 感染性胃腸炎患者数は大幅増。家庭内感染の可能性も

医療情報分析サービスを手がける株式会社インテージリアルワールド（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：佐藤 暢章）は、独自に運用する統合医療データベース Cross Fact の 2022 年 1 月データを基に、新型コロナウイルスの感染拡大がレセプトデータに与えた影響を調査・分析しました。

新型コロナウイルスの感染拡大は 2021 年 10 月から 12 月まで抑えられていましたが、1 月に入るとオミクロン株の流行が拡大し、新規感染者数は第 5 波のピークをはるかに上回りました。同時流行が懸念されるインフルエンザのピークは例年 1 月ですが、2022 年の状況はどうだったのでしょうか。流行状況の指標としてインフルエンザ治療薬の処方動向をみていきます。

2022 年 1 月の経口インフルエンザ治療薬の推計患者数は約 2,700 人となり、9 月以降 4 ヶ月連続で増加しています。しかし、コロナ禍前の 2017 年～2020 年平均比で約 1,200 分の 1、2021 年比で約 15% 減と患者数が少ない状況は続いており、流行入りは見られません。例年 1 月をピークにインフルエンザ患者数は減少していくため、2021/2022 シーズンも昨年同様、流行なく春を迎える可能性が高まっています。

■インフルエンザ治療薬 推計患者数推移



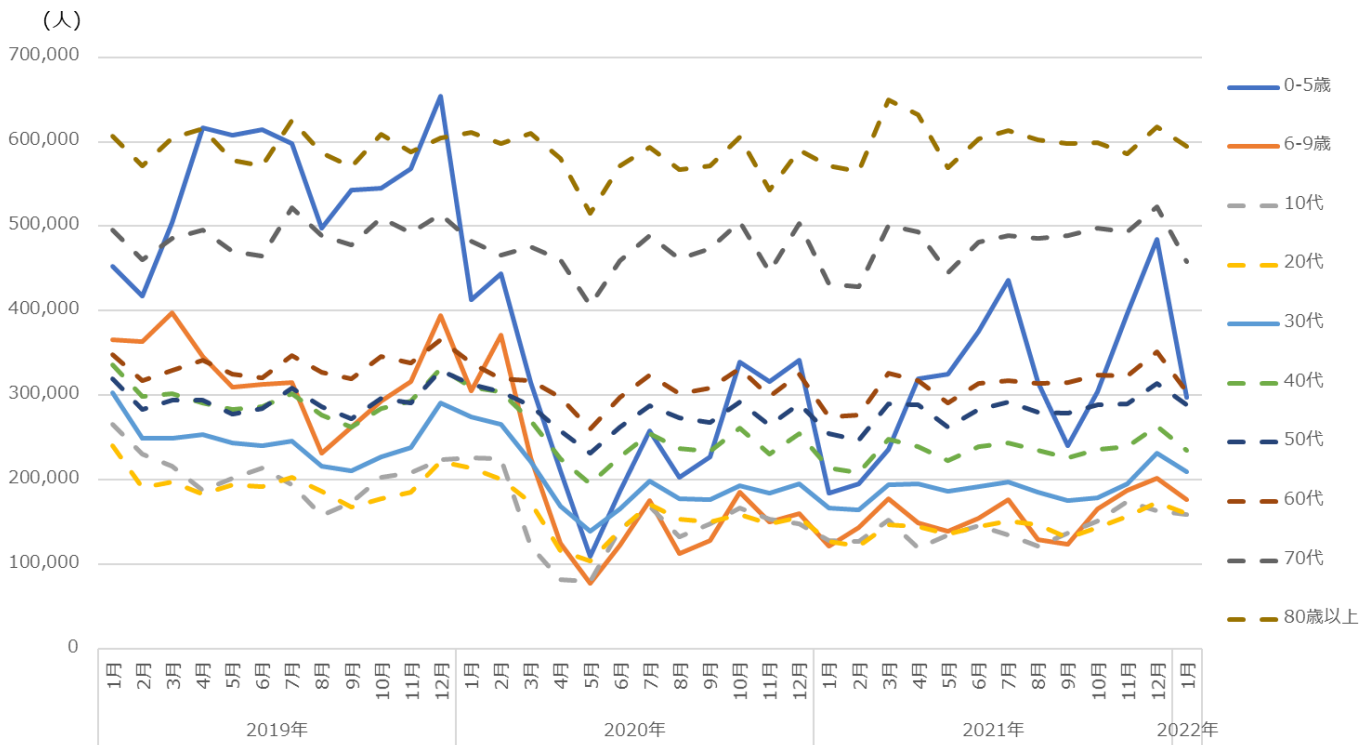
出典：「Cross Fact」（株式会社インテージリアルワールド）

院外調剤薬局で調剤可能なオセルタミビル、ザナミビル、ラニナミビル、バロキサビルを処方された患者を対象として分析

冬の感染症と言えばインフルエンザが思い浮かびますが、感染性胃腸炎も冬に流行する感染症の一つです。こちらもインフルエンザ同様、流行は抑えられているのでしょうか。感染性胃腸炎の場合、整腸剤である乳酸菌製剤(ビオフェルミンなど)を処方されることが多いので、こちらを指標に動向を見ていきます。

乳酸菌製剤の処方患者数は2020年5月に激減、特に10歳未満の小児患者が大きく減少しています。その後、増減を繰り返しながらやや増加傾向となり、2021年12月には5歳未満の乳幼児患者がコロナ禍で最大の患者数(前月比22%増)となりました。その他の年代は10%前後の増加が多い中、30代は前月比19%増となり、乳幼児のいる家庭内で感染が広がったことが想定されます。新型コロナウイルス同様、家庭内感染を防ぐことの難しさを示した数字なのかもしれません。

■乳酸菌製剤 推計患者数推移



出典：「Cross Fact」(株式会社インテージリアルワールド)

2月に入り新型コロナウイルスの新規感染者数は高止まりからやや減少が見えてきておりますが、オミクロン株亜種(BA.2系統)の市中感染も確認され、このまま感染者数が減少傾向に入るかどうかは不透明な状況です。3回目のワクチン接種も加速してきており、アセトアミノフェン処方への影響も気になるところです。

インテージリアルワールドでは今後も新型コロナウイルスが処方に与える影響をいち早く捉え、発信して参ります。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社インテージリアルワールド 企画開発部 鹿島田

Eメール: pr-irw@intage.com Tel:03-5294-5990

株式会社インテージリアルワールド 会社概要

会社名 : 株式会社インテージリアルワールド

所在地 : 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-6 御茶ノ水ソラシティ 13 階

代表者 : 代表取締役社長 佐藤 暢章

設立日 : 2005 年 7 月 14 日

資本金 : 1 億 8,825 万円 (株式会社インテージヘルスケア 100%出資)

事業内容 :

株式会社インテージリアルワールドは、国内最大級の医療リアルワールドデータベースを運用するリーディングカンパニーです。設立以来、「医療消費者」視点を重視し培ってきた医療リアルワールドデータの知識や分析・加工技術を基に、マーケティングデータや研究用データを製薬企業や研究機関へ提供しています。2020 年 7 月、インテージグループ内ヘルスケアセグメント事業会社から医療リアルワールドデータを当社に集約。それらを活用して新たなソリューションを開発し、よりタイムリーに多様な職種の方々に直接お届けしていくことで、医療リアルワールド業界のファストブランドを目指します。

URL : <https://www.intage-realworld.co.jp/>